

平成29年奈良県地価調査 結果概要

本県の地価は、依然として緩やかな下落基調にあり、全用途(林地除く。)の対前年平均変動率が▲0.7%(昨年▲0.6%)となった。

〈住宅地〉

- 平均では、▲0.9%(昨年▲0.7%)となり、9年連続の下落となった。
変動率は、全国21位となった。
- 昨年からの継続調査地点(209地点)のうち、23地点で上昇、40地点で横ばい、146地点で下落となった。
- 昨年に引き続き、奈良市、生駒市、香芝市の3市で平均変動率が上昇している。利便性・環境とも良好な人気のある住宅地を中心に需要が集中する傾向が見られる。

〈商業地〉

- 平均では、0.3%(昨年0.0%)となり、平成20年から9年ぶりに、上昇に転じた。
変動率は、全国13位となった。
- 昨年からの継続調査地点(43地点)のうち、16地点で上昇、13地点で横ばい、14地点で下落となった。
- 奈良市、橿原市、生駒市、香芝市の平均変動率が上昇しているが、県中南部においては、周辺大型店舗や主要幹線沿い店舗への顧客流出により、既存商業地において引き続き下落傾向にある。

〈工業地〉

- 平均では、1.7%(昨年0.7%)となり、平成26年から4年連続の上昇となった。
変動率は、全国8位となった。
- 昨年からの継続調査地点(3地点)のうち、2地点で上昇、1地点で横ばいとなった
- 平成26年に西名阪自動車道の「大和まほろばスマートインターチェンジ」が全面開通したことや国道163号の整備により、周辺工業団地の需要が高まったことにより、大和郡山市、生駒市の地点において上昇傾向となっている。